

権力の監視はそつちのけでリークをもとに既成事実が作られた

検察の裏ガネ作りを告発する直前に逮捕 そして私は大マスコミの「官報射撃」で潰された

大メディアが国策捜査の片

棒を担ぐ典型例が「三井環事
件」だ。当時、検察官だった三
井環氏は検察の裏ガネ問題を
実名告発する直前に逮捕され
た。そしてメディアによって
腐敗官僚の汚名を着せられた。

02年4月22日、私は大阪地
検特捜部に逮捕された。

その頃、私は「大阪高等検
察庁公安部長」という肩書き
で、検察の組織的な裏ガネ作
りを実名告発しようとしてい
た。逮捕当日はテレビ朝日の
「ザ・スクープ」の収録を控
えていた。その矢先の逮捕だ
った。

容疑は「電磁的公正証書原
本不実記載、不実記録電磁的
公正証書原本供用、詐欺、公
務員職権濫用」。私がマンシ
ョンを購入し、住んでもいな
いのに住民票を移して、登録
免許税約47万円の軽減措置を
受けたというものだった。登
録免許税法には処罰規定がな

いため、検察は刑法の詐欺罪
を適用した。

私はマンションを競売で購
入し、リフォームして住むつ
もりだった。ローンを組む際
に銀行側から住民票を移すよ
う言われた。検察は融資実行
までの1週間ほどの空白期間
をとらえて、不実記載とした
のだ。私に裏ガネ作りを告発
させないための「口封じ逮捕」
であることは明白だった。

ところが、検察の裏金作り
と私の不当逮捕を正面から追
及する新聞はほとんどなかつ
た。一部の週刊誌が取り上げ
ただけである。かわりに新聞
は検察のリークに乗っかり、
私の人格攻撃に勤しんだ。検
察は裏金作りを隠蔽するため、
是非でも私を「悪人」に仕
立てる必要があった。大メデ
ィアはその片棒を担いだのだ。
私が任意同行された際、読
売新聞だけが検察リークによ
り写真撮影に成功している。
その後、読売はリーク報道を

繰り返した。

たとえば02年4月22日付の
読売新聞には《競売専門》
財テク検事 不動産を格安で
購入、転売》という見出しで、
こう書かれた。

《バブル期には、格安で競
売物件を購入しては転売を繰
り返し、財テクしていたよう
だ。『三井不動産』と呼ばれる
こともあった》

三井容疑者を知る検察関係
者はこう話す

当時、十数件の不動産を所
有していたのは事実だ。だが、
それらは生命保険に入るかわ
りに老後の備え、万が一の備
えとして購入していたもので
転売などしていない。その記
事を読んだ人は私のことを
「財テク悪徳検事」だと思っ
ただろう。家族に取材すれば
その辺りの事情はすぐに分か
るのに、裏取りもせずに書き
飛ばした。

「家賃収入 年間500万
円」という文句も各紙を飾っ

元大阪高検公安部長
三井環

MITSUJ
Tamaki

た。まるで私が給料とは別に
年間500万円の収入がある
かのような誤解を招く表現だ。
実際は月約63万円の家賃収入
に対して、ローンの元利返済
は約66万円で赤字だった。

交際し勤務時間中にも及んで
おり、特捜部は、三井被告と
渡真利容疑者との関係の解明
をさらに進める」と報じた。
私が前述のマンションを競
売で購入した後、暴力団組長
が占拠しており、先方から「買
い戻し」を打診された。その
交渉過程で暴力団組長と交友
のある渡真利と親しい関係に
なったのは事実だ。これは私
の脇が甘かった。

その後、検察は5月10日に
私を起訴し、同じ日に収賄容
疑で再逮捕した。私が暴力団
の企業子弟である渡真利忠光
という男から捜査情報の提供
を頼まれ、見返りに高級クラ
ブでの接待、デートクラブ嬢
の手配などをしてもらった、
というものだった。私を少し
でも「重犯罪人」に仕立て上
げ、「口封じ逮捕」との批判を
かわすためだったと思われる。
この時も新聞は検察のリーク
を無検証に垂れ流した。

検察側の根拠は渡真利の供
述だけだった。新聞はそれを
「事実」として勤務時間中に
デート嬢と情交したと大々的
に報じた。後にわかったこと
だが、渡真利が私にあってがっ
たというデート嬢は01年12月
に殺害されていた。死人に口
なしだ。

5月11日付の読売新聞は
《収賄容疑で再逮捕の高検前
部長、組員に次々「買春」要
求／勤務中にデート…》との
見出しで《こうした女性との

後に渡真利の運転手の日報
が発見され、接待があったと
される日に彼は三宮へ行った
事実が判明。物理的に大阪で
接待は不可能だ。さすがにこ
の件では無罪となった。20
10年1月18日に静岡刑務所
から私は満期出所した。そし
て今、逮捕当時よりも検察と
大マスコミの癒着は酷くなっ
ている。権力の監視機能を果
たさぬマスコミに存在価値は
ない。

【PROFILE】1944年愛媛県生まれ。中央大学法学部卒。72年検事に
任官。99～02年、大阪高検公安部長。02年4月に検察の裏ガネ作り
を告発する直前に大阪地検特捜部に逮捕される。市民連帯の会代表。

*三井氏は検察の「調査活動費」の流用を告発。調査名目をでっち上げ、架空の情報提供者
に情報料を支払った形にして、実際には検事正以上の幹部が高級クラブや料亭、ゴルフなど
で豪遊していた。検察全体の調査活動費はピークの98年度には5億9740万円にのぼっていた。

〔総力メディア検証〕

冤罪大国を作った「亡国」のタッグを斬る

検察の走狗となつた記者クラブ

取り調べDVD流出

PC遠隔操作事件

検審疑惑

検察は公訴権、逮捕権という強大な二つの権力を握る。そのシステムは、彼らが高いモラルを持つことを大前提としている。だが、村木厚子裁判やPC遠隔操作事件などで見られた証拠の捏造、強引な捜査、さらに次々と発覚する冤罪事件を見れば、その前提はとうに崩壊している。権力が暴走したとき、それを監視・追及するのがマスメディアの役割だ。情報ほしさに検察の二機嫌をうかがう現状の記者クラブメディアはその責務を果たしていない。取材対象との緊張関係を失い、権力と一体化したマスコミは「国民の知る権利」を蔑ろにしている。

ここに来て捜査当局は共同と朝日の記者5人を書類送検

証拠も自白もなく、裁判長さえ「異常」と指摘 それでも検察とメディアは「真犯人は片山」で押し通す

本誌編集部

PC遠隔操作事件

「捜査終結」(産経新聞6月28日付)——報道に接する限り、4人の誤認逮捕者を出したPC遠隔操作事件は収束したかに見える。しかし改めて検証すると、検察の「暴走」とそれに加担するマスメディアの問題が、この事件に凝縮していることがわかる。

*

まず指摘しておかねばならないのは、捜査手法そのものの問題点だ。片山祐輔被告はこれまで、計10事件で起訴さ



共同通信社

片山被告の主張は無視され続ける。

れている。対して片山被告は一貫して無実を主張。同被告の弁護士を務める元裁判官の木谷明氏は、「この事件は、見込み起訴^{*}されている」と批判する。

「公判前整理手続きでは、検察官が『証明予定事実』を書面提示し、あらかじめ証拠などを明らかにした上で裁判の争点を詰める。ところが5月22日に行なわれた第1回の整理手続きの書面には事件の事実関係以外、被告の関与を示す証拠も手口も、犯人性を示す主張も書かれていなかった。これでは論点整理できない。それについて検察は『捜査中』という驚くべき発言をした。捜査を尽くしてもいないのに

起訴したのです」

同じく片山被告の弁護士である佐藤博史氏によれば、書面を見た裁判長も「異常な書面」と指摘したという。

強引な捜査はまだある。

片山被告は可視化すれば取り調べに応じるとしたが、検察が拒否、取り調べは行なわれていなかった。そこで検察はある手段に出たという。

「起訴前の3月、業を煮やした検察は『弁解録取』^{*}をする」と片山被告に持ちかけた。

我々としても弁解録取なら応じてもいいと判断した。しかし、そこで検察官は3時間半にわたって実質的な取り調べを行なったのです。これは容疑者の権利を侵害する行為で、違法性がある(木谷弁護士)

また、多くの事件をバラバラに逮捕・起訴して100日以上も勾留したことも異常である。その間に強引に自白を引き出そうとしたと見られても仕方ない。多くの冤罪事件で繰り返された、精神的に追

*1 公判で、証拠により証明しようとする事実のこと。

エイズ—忘れられた病禍— 最終回 結婚、恋愛、出産—できるけど、できない／伊藤隼也と本誌取材班

SAPPIOビジネスリポート 第10回 ソニープレステ4、マイクロソフトXbox Oneという強敵も出現！

任天堂「ファミ」30年目の決戦／永井隆と本誌取材班

ゲーム機競争 「カイゼン」より新作にこだわる「開発至上主義」で挑む「頂上決戦」 91

ネット戦略 ダウンロード、Suica決済、「出前」まで—問われる「ネットビジネス」の未来図 94

海外展開 日米欧で営業利益1000億円 世界制覇を実現する「戦略」を描けるか 95

参院選直前緊急提言

「若者だけに痛み」では未来はない 世代別選挙区制で高齢者民主主義を打破せよ／井堀利宏

総力メディア検証 冤罪大国を作った。亡国のタッグを斬る

検察の走狗となった記者クラブ

PC遠隔操作事件 証拠も明白もなく、裁判長さえ「異常」と指摘 それでも検察とメディアは「真犯人は片山」で押し通す／本誌編集部 98

可視化 捜査検証番組を潰した検察に屈するメディアは権力監視も国民の知る権利も放棄している／江川紹子 100

検察審 小沢一郎を強制起訴し、証拠捏造検事を無罪放免にした検察審査会の疑惑は闇に葬られた／武富薫 102

証言 検察の裏方ネ作りを告発する直前に逮捕そして私は大マスコミの官報射撃で潰された／三井環 104

実態 検事のために記者が「夜食づくり」まで… 特捜部とメディアが結びつく「リーク」の裏／伊藤博敏 105

事件簿 訂正も謝罪もなし！ 大新聞は冤罪事件をどう報じたか／青木理 106

カラ・生市維

地方局美人女子アナ「地元の逸品」リレー・リポート／本誌編集部

Original Stories

新時代を 読む連載ライナップ

小林よしのり『ゴーマニズム宣言』花魁・苺藻との出逢い 59

佐藤優『Intelligence database』 44

黒田勝弘『ソウル風』 46

大前研二『人間の時代』 47

深川峻太郎『日本人のホコロビ』 50

落合信彦『新世界大戦の時代』 51

須田慎一郎『千里眼』 58

川本三郎『平成百色眼鏡 見たり読んだり』 79

名越健郎『ザシヨークンシエルジュ』 80

ウィリー・ラム『北京探題』 83

山下柚実『ヒット商品は主張する』 86

業田良家『ガラガラポン！ 日本政治』 112

「フロム・リーダーズ」、SAPPIO川柳 81

書聞倶楽部 84

THE WORLD FILMeX 114

誌名の「サビオ」はラテン語で「味わう」という直接の意味から「物事の真理を探る」という抽象的意味までを含んでいます。「知恵のある人」をラテン語で「ホモ・サビエンス」と言いますが、この語源もサビオから来ており、サビオは「知恵を探る本」という意味で名付けました。

本誌掲載記事・写真、イラスト等の無断複写（コピー）複製（転載）を禁じます。©小学館2013 本誌を無断で複写複製（コピー）することは、著作権法上の例外を除き、禁じられています。本誌をコピーされる場合は、事前に公益社団法人日本複製権センター（JARRC）の許諾を受けてください。（JARRC連絡先）http://www.jarrc.or.jp eメール:jrc_info@jarrc.or.jp ☎03-3401-2382 盗本にはじょうぶな注意しておりますが、万が一、落丁、乱丁などの不良品がありましたら、小学館制作局までお送りください。良品とおとりかえします。☎0120-336-082 表紙写真／西谷格 デザイン／ための企画 真島真